

## 第2回 国道106号宮古地区防災対策検討協議会の概要

1 日時 : 平成31年1月23日(水)  
13時30分～14時50分

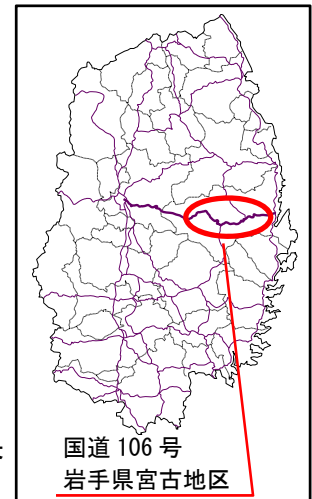
2 場所 : 岩手河川国道事務所大会議室(盛岡市上田)

3 出席者  
(委員)

南 正昭	岩手大学工学部教授
井良沢 道也	岩手大学農学部教授
船木 仁	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所副所長
上澤 和哉	岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター所長
田中 隆司	岩手県県土整備部道路建設課総括課長

(オブザーバー)

佐々木 博樹	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所調査第二課長
佐々木 健	岩手県盛岡広域振興局土木部道路河川室長



4 議事

- (1) 整備方針案の検討
- (2) 技術的課題の整理
- (3) 今後の検討の進め方

5 議事内容・まとめ

- 優先整備区間である根市～墓目、箱石～達管部の整備方針案の検討にあたっては、整備の必要性、配慮する事項、ルート構造・選定のポイント、評価の考え方に基づき、河川との並行区間を回避し、自然災害に強く、信頼性の高いネットワークの確保に配慮したものとすることで了解を得た。  
これを受け、いずれの区間も総合的に優れているAルートを基本に、以下の検討を進めることとした。
- 優先整備区間である根市～墓目、箱石～達管部ともに地形・地質が複雑であり、トンネルなどの重要構造物が連続することから、調査計画、施工の各段階で高度な技術を要するため、設計条件や地質特性等を整理し、詳細なルート・構造の検討を進める。
- 技術的課題に対して、地質調査を踏まえた地山変状解析や法面崩壊対策、トンネル近接施工の影響解析など、優先整備区間の詳細調査と適切な施工方法について検討を進める。
- 根市～墓目では、マサ土が広域的に分布しているため、地山変状対策やトンネル支保の補助工法の検討を行う。  
花崗閃緑岩と混在岩との地質の境目付近では、脆弱な地層が想定され、技術的難易度が高い施工となることが考えられるため、慎重に検討を行う。
- 箱石～達管部では、混在岩や断層が存在する区間をトンネルで通過することが想定され、中間部～終点側のトンネル部は破砕帯の存在が想定されるなど、高度な技術・経験を必要とする施工となることが考えられる。  
混在岩は、粘板岩やチャートなどが堆積しており、境目が脆弱となることから、慎重に検討を行う。
- 急峻な山地と深い谷地形では、地山がカモフラージュされている場合があることから、浮き石や地すべり地形を適切に把握し、落石対策や防災対策の検討を行う。